

ギャンブル依存症

治療は、病気であることの“自覚”から始まる



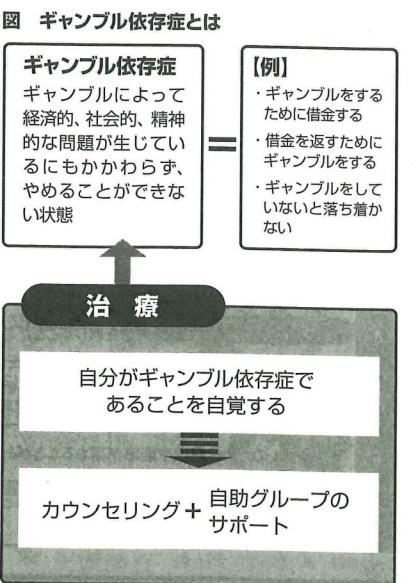
イラスト／新藤良子

どうしてもギャンブルがやめられないのは、依存症の疑いも。依存症の問題は近年、よくあります。また、職場や家庭でなんらかのトラブルを抱えていたり、仕事での過度のストレスがたまっていたりする人が、心の安定を求めて手をだすことが多いようです。ほかに、幼少の頃から、ギャンブルが身近にあった人（両親がギャンブルをする、若い頃から麻雀などにはまっていた、ゲームセンターに入りびたついたも、比較的、陥りやすいといわれます。もちろん、ギャンブルをする人すべてが、ギャンブル依存症といふわけではありません。

負けがこんでも「いかは勝てるわけではありません」と信じて続いていると、借錢してまで続けたり、職場での信用をなくし、夫婦関係の破綻を招いて嫌いという、がんこな面もみられます。また、職場や家庭でなんらかのトラブルを抱えていたり、仕事での過度のストレスがたまっていたりする人が、心の安定を求めて手をだすことが多いようです。ほかに、幼少の頃から、ギャンブルが身近にあった人（両親がギャンブルをする、若い頃から麻雀などにはまっていた、ゲームセンターに入りびたついたも、比較的、陥りやすいといわれます。もちろん、ギャンブルをする人すべてが、ギャンブル依存症といふわけではありません。

**自分は病気なんだという
自覚をもたないと
治療にならない**

ギャンブルへの依存を自覚してしまいます。このような状況になってしまっても、やめられない場合は依存症といつてよいでしょう。ギャンブル依存症がおそろしいのは、現実には、借錢や人間関係の崩壊といった問題がおこつていてもかわらず、そこから目をそむけ、「勝ったときの陶酔感や高揚感、解放感」のとりこになります。その結果、周囲の人との信用を失つて、最終的にはひとりぼっちになり、仕事を失い、借錢に追われる生活を送る人も少なくありません。



以前はこうした状態は「本人の「やめたくてもやめられない」「いつかは勝てる」と信じて借錢をくり返してしまう」のは、もう健康な状態とはいえないでしょう。ギャンブルは娛樂なので「自分が楽しんでやっているのではなく、いつかは勝てる」と信じて借錢をくり返してしまう」とは、もう健康な状態とはいえないでしょう。

「ギャンブル依存症」は、「ギャンブルによって経済的、社会的、精神的な問題が生じているにもかかわらず、やめることでできない状態」をさします。具体的には、「ギャンブルをするために借錢をする」「借錢を返すためにギャンブルをする」「ギャンブルをしていないと落ちかない」「ギャンブルのめり込むあまり仕事がお頃のストレスを、こうした賭博で法律で認められています。日頃のストレスを、こうした賭博で解消する人は少なくないであります。つまり、「これ以上やつてはいけない」と、自分のなかでギャンブルにかける時間や費用の基準を決めて、コントロールしているのです。

どうしてもギャンブルがやめられないのは、依存症の疑いも。依存症の問題は近年、よくあります。

岩崎正人
岩崎正人
いわさきまさと
一九七七年、日本医科大学卒業後、立憲義塾久里浜病院、都立松沢病院、日本医科大学大学講師、東京都中野区総合精神保健福祉課を経て現職。専門は依存症。

パチンコ業界のとり組み

2006年4月に、パチンコ業界がギャンブル依存症に悩む人や、家族をサポートするための相談機関を開設しました。「ぱちんこ依存問題相談機関 リカバリーサポート・ネットワーク」という名称で、全日本遊技事業協同組合連合会（全日遊連）の支援によって立ち上げられました。

中心となっているのは、薬物依存治療に詳しい沖縄県精神科医・西村直之氏、ソーシャルワーカーや弁護士も協力して運営にあたります。

パチンコに過度にめり込んだ際の家族の対応や対処、回復支援について電話相談を受けるほか、地域にある相談機関や自助グループなどを紹介します。

詳細はホームページを参照してください。
☆ http://www.geocities.jp/rsnokinawa/

【問い合わせ】
リカバリーサポート・ネットワーク
〒903-0125
沖縄県中頭郡西原町上原103 ルボワ YARA2階
☎ 098-871-9671

☆相談専用ダイヤル
☎ 050-3541-6420
(IP電話ですので、通話料がかかります)

☆受付時間
月曜～金曜（祝日を除く）10:00～16:00

自分は病気なんだという
自覚をもたないと
治療にならない

自分が病気である」と認めることが、八方ふさがりの状態に陥つて「なんとかしなければいけない」と思つたら、専門医に相談したり、次ページで紹介する自助グループに参加してみましょう。

本人が気づいていない場合は、家族や周囲の人々が配慮することも必要です。治療はカウンセリングが中心となります。まずは「あなたはギャンブル依存症といつ病気なんですかよ」という「自覚」を促すことから始めます。また「治療を行えば回復する」というサポートも大切になります。

治療はカウンセリングが中心となりますが、アルコール依存症に効果をあげていた「ナルフェニン」という抗える薬物療法が有効では、といふ意見もありますが、日本では行いません。しかし、最近、米国のミネソタ医大で行われている調査研究の結果、アルコール依存症に効果をもたらすが、ギャンブル依存症にも効果があるかもしれないという説が発表されました。研究者も今後動きに注目しています。